



特集

笠間志学 ～明日の笠間をつくる～

子どもたちに、笠間市のことを知ってもらいたい。

このまちで生まれ育った子どもたちが将来、

世界で活躍できる人、

地域を支える人に育ってもらいたい。



今回の特集では、

郷土教育を推進するための取り組み

「笠間志学」かさましがく について紹介します。

(写真：笠間稲荷神社提供)

各学校の先生方が工夫を凝らしながら進めてきた笠間市の郷土教育。

しかし、統一的なカリキュラムがなかったため、学習内容は先生方に委ねられてきました。

そこで、笠間市の歴史、産業、芸術、偉人の中で「これだけは知ってほしい」を集めたのが教師用指導マニュアル「笠間志学」です。

今までの経験と知識の集大成として作られた笠間志学には、先生方の子どもたちに向けた期待と願いが込められています。

笠間市への関心を高め、郷土愛を育んでほしい

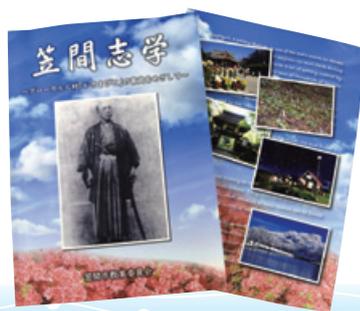
子どものころに多くの体験をすることが人生を豊かにするといわれています。小学一年生から中学三年生までの九年間を通じて、地域に残る民話や歴史、そして芸術などに触れる機会をつくりました。そうすることで笠間市への関心を高め、郷土に関する知識などを学び、将来、どこで暮らしていても、笠間市を愛し、いつの日か笠間市のために役立とうという気持ちを持ち続けてほしいと考えています。

郷土の先人たちを、もっと知ってもらいたい

皆さん、上の写真の人物をご存知ですか？ 笠間市の偉人の一人、笠間藩士の小野友五郎おのともごろうです。友五郎は、幕末に勝海舟かつかいしゅう（艦長）やジョン万次郎まんじろう（航海助手兼通訳）とともに、日米修好通商条約の批准調印のため、日本初の太平洋横断をした咸臨丸かんりんの航海長として米国に渡りました。

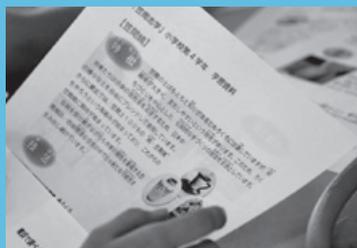
友五郎は幕末から明治にかけ、理数の才能を存分に生かして、航海術、海軍の創設、鉄道事業など日本の近代化に大きな足跡を残しました。

このような偉人がいたことを知っている方は、市民の皆さんでも決して多くはないでしょう。このほかにも、笠間市には、多岐にわたり活躍した偉人たちがたくさんいます。子どもたちには、私たちの郷土、笠間市の発展に尽くした人を知ってもらいたいと願っています。市立図書館に「かがやく笠間の先人たち」や「笠間志学」を蔵書していますので、一度見てみてくださいね。



郷土教育資料「笠間志学」

学びの場から



※岩間第三小学校での「笠間志学」を活用した授業風景

笠間を大切にしたい人を育てたい（岩間第三小学校）



おおし くにとこさん（主査）

笠間市には多くの偉人がいますが、中学生の時に世界でも大活躍した小野友五郎というものすごい偉人がいることを知り、感動を受けたのをよく覚えています。しかし、残念なことに、笠間の方でも小野友五郎を知っている人はほとんどいないのが現実なんです。私はいばらき観光マイスターS級※の資格を生かして、ゲストティーチャーとして「知って人をもてなす」笠間人を育てるお手伝いをしています。将来、子どもたちが、世界に羽ばたいていけるような大きな志を持てるよう舵取りをしていきたいと思ひます。

※いばらき観光マイスターS級

いばらき観光マイスターの中でも、観光案内をする上でより高い知識とおもてなしの心による高い接客スキルを持っていることが認められた称号。



のぶり ひでこさん（教諭）

今回、笠間志学の作成に携わらせていただきました。笠間志学は、子どもたちに自分の住んでいる笠間市の良さを一から知ってもらうための郷土教育資料です。

スタートとなる小学1年生では、笠間特別観光大使の「いな吉」くんを知ってもらうことから始め、ゴールの中学3年生の時には、「笠間の良さを英語で世界に発信できる」ようになってもらうことを目標にしています。子どもたちには、笠間市を学ぶことでこんな素敵な笠間市に住んでいることを誇りに思ってもらいたいと考えています。

私は青森で子ども時代を過ごし、出会いにより笠間に移住。歴史と伝統、笠間稲荷神社、笠間焼を有し、県内外から観光客等を温かく迎え入れられる雰囲気を楽しんでいます。

学びを通し、夢や希望を育てたい

「笠間志学」作成にあたって、今泉教育長にお話を伺いました！

笠間市を学ぶという意味を含んだ「志学」という言葉は、孔子(中国の思想家)の「論語」の一節「吾、十有五にして学に志す」からとりました。「志す」には、「決心する」という意味があり、この一節を訳せば孔子は「15歳で学問の道で生きていくことを決心した」ということになります。つまり孔子は現代の中学3年生の時に自らの人生を決定し切り開いていったのです。

私は、笠間市の子どもたちも、この郷土の学習を通して笠間市を学ぶことで、孔子のように中学3年生の時に夢や希望を持ち、自らの人生をどう生きていくか思い描けるようになってほしいと願っています。

今後、笠間市の学校教育は、道徳など心の教育を礎に、グローバル化に対応するための「英語教育」(平成27年度から小中全校で開始)、ローカルを大切にするための「郷土教育」(平成29年度から小中全校で開始)、ICTを活用するための「情報教育」(平成29年度「みなみ学園」を研究校に指定)の3本を教育の柱として進めていきます。



いまいづみ ひろし
今泉 寛
笠間市教育長